



シラバス

令和 7 年度 (2025 年度)

1 年次 履修科目

指定保育士養成施設 こども學舎

シラバス目次

倫理学	1	子どもの食と栄養	27
キャリアプランニング	2	保育内容総論	29
体育（講義）	3	保育内容演習（表現）	30
保育原理	4	保育内容演習（環境）	31
教育原理	6	保育内容の理解と方法（音楽表現）	32
子ども家庭福祉	8	保育内容の理解と方法（身体表現）	33
社会福祉	10	保育内容の理解と方法（造形表現）	34
子ども家庭支援論	12	障害児保育	35
社会的養護 I A	14	保育実習指導 I A	37
保育者論 A	15	保育のピアノ A	38
保育者論 B	16	ファシリテーション	39
保育の心理学	17	児童文学	40
子どもの保健	19	リトミック	41
保育の計画と評価 A	21	保育所保育指針	42
乳児保育 I	22	保育書類指導	43
保育のシゴト A	24	保育 ICT	45
文章表現	25	特別支援教育	46
情報処理	26		

令和7年度シラバス

科目名			単位	担当教員名	
倫理学			1単位		
開講年次	1年次	科目区分	必修	授業形態	講義
科目概要					
(授業のテーマ) 倫理学の学びを軸に物事の本質を発見し、問題を構造的に捉える視点を学ぶ。 現代の倫理的課題をそれぞれが思考し、当事者性をもって学習する。					
(学習目標) 物事を構造的に捉え、物事の本質を探る視点を持つ。 現代の倫理的課題について理解を深める。					
評価方法・基準					
授業姿勢、レポート提出など					
履修上の注意点					
当事者意識をもって思案できる姿勢が望ましい。					
教科書					
参考書					

	授 業 内 容
1回	ようこそ倫理の世界へ
2回	幸福について考える①
3回	幸福について考える②
4回	社会的契約について考える①
5回	社会的契約について考える②
6回	自由について考える①
7回	自由について考える②
8回	利他性について考える①
9回	利他性について考える②
10回	正義について考える
11回	現代の倫理的問題①
12回	現代の倫理的問題②
13回	専門職としての倫理
14回	保育士としての倫理
15回	まとめ

令和7年度シラバス

科目名			単位	担当教員名	
キャリアプランニング			1単位		
開講年次	1年次	科目区分	必修	授業形態	講義
科目概要					
(授業のテーマ) 保育士としての仕事、就業する職場について理解を深める。保育業界ならびに一般社会で活躍する人材となるために必要なスキルを学ぶ。また、今後の就職活動に備え心得ておくべき知識等を学ぶ。					
(学習目標) 保育者として必要な「職業観」を身に付け、働き続けるためのキャリアパスを描く。					
評価方法・基準					
出席状況・授業態度・積極性等を総合的に評価する。					
履修上の注意点					
教科書					
参考書					
必要に応じて資料を配布することもある。					

	授 業 内 容
1回	オリエンテーション
2回	私のキャリア
3回	保育園について①
4回	保育園について②
5回	児童発達支援施設等について①
6回	児童発達支援施設等について②
7回	就労施設について①
8回	就労施設について②
9回	求人票について①
10回	求人票について②
11回	履歴書について①
12回	履歴書について②
13回	面接について①
14回	面接について②
15回	まとめ

令和7年度シラバス

科目名		単位	担当教員名		
体育（講義）		1単位			
開講年次	1年次	科目区分	必修	授業形態	講義
科目概要					
(授業のテーマ) 「 体育科教育法 」を基本にして下記の学習内容を理解することが大きな目標です。 1. 児童・生徒の教育の中で「体育」をどのように捉え、理解することが必要であるかについて学習するところから進めていきます。（現行指導要領を参照） 2. 学習の進展に伴って、将来に対して、WHOにおける「健康」の概念を基本に据えて、幼児期から老年に至る健康について考える。その中でも重要視することは「健康の生活化」、「健康の日常化」の実践に向けての理解と具現化について学習することにします。 3. 身体活動と健康の維持・管理にどのような関連があるのかについて理解することです。 4. 「自分の健康は自分で守る」と言う意識をどのように培うかを理解することです。テーマの大前提は、「体育の概念」、「健康の科学」についての基本的学習です。					
(学習目標) ◎ 13 回の学習課題に対して記録・記憶することでは無く、「入力の学習から出力の学習に意識を変えることである。また、常に疑問を感じ、その解決の糸口を探索する「考える学習」の習得を期待します。（問題解決学習の修得） ◎学習して理解したことを正しく伝えることが出来る能力を高めることが、学習成果の最終目標です。（自己の考え方を作り上げることが重要） ◎自己の「学び方を学ぶ」学習に対する姿勢が重要です。					
評価方法・基準					
1. 筆記試験（100％）採点基準は別途お知らせします 2. 講義に取り組む姿勢（10％） 3. 欠席状況（10％） （講義に不必要な行為、行動は慎んでください）					
履修上の注意点					
①私語、及び遅刻は受講環境の破壊につながります。 ②授業時数（出席に日数）の確保は単位認定の受験資格の重要な要件です。 ③学習の準備を充分に行うこと。 ④電子機器類は指示があるまで収納してください。（補水以外の飲食は不可）					
教科書に代わってオリジナル配布小冊子の活用					
使用しない（適宜プリントを配布します。					
参考書					
必要に応じて適宜紹介します					

	授 業 内 容
1回	Orientation and Guidance：学習の方向性を理解する。 体育科（保健体育）教育の概念、目標・目的と学習の成立条件についての学習
2回	体育の授業における子ども（学習者）の活動（運動活動）の特徴 トレーニングとレクリエーション
3回	幼・少年期の体育について考えてみましょう 目的と目標の概念を明確にする
4回	発達の視点に立った場合の体育について理解する 認知・情緒・心理について掘り下げて考える
5回	発達の視点に立つ体育の構成要素－1－ ①運動発達 ② スキルの学習 ③ 体力について考える
6回	発達視点に立つ体育の構成要素－2－ ③認知的学習 ⑤ 概念の学習 ⑥ 知覚－運動学習
7回	発達視点に立つ体育の構成要素－3－ ⑦情緒の発達 ⑧ 自己概念の向上 ⑨ 積極的社会化
8回	子どもの成長と運動発達について理解を深める 「成長」とは何か・「発達」との違いを明確に理解する 年齢と発育・発達について考える
9回	成長・発達に関する要因について考える 栄養：食事 運動（身体活動） 睡眠 ライフスタイルに注目
10回	発達について深度を高める 発達のダイナミックス
11回	運動発達に影響する要因について考える 発達の系列及び発達の可変性とレディネスについて理解する
12回	運動パターン、運動様式、開始年齢について理解する 歩く・走る・跳ぶ・ホップ・スキップ・ギャロップ・つかむ ・投げる・・・等
13回	運動スキルの発達の重要性について理解を深める 運動スキルと運動パターンを理解する（図の分類から学びとる）
14回	運動が心身の健康に及ぼす影響について考える 幼児期の遊びの重要性 遊びが認知機能に与える影響について考える
15回	熱中症予防・救急時の対応（アレルギーアナフラキシーショック） 14回までの講義のまとめ及び総合的評価 筆記試験（所要時間40分）

令和7年度シラバス

科目名			単位	担当教員名	
保育原理			2単位		
開講年次	1年次	科目区分	必修	授業形態	講義
科目概要					
(授業のテーマ) ・ 保育原理を学ぶ意味（保育の歴史・保育の制度・保育内容・保育方法等）を知る。 ・ 保育をより深く、的確に把握する。 ・ 保育の意味をより深く捉える。					
(学習目標) ① 保育の意義及び目的について理解する。 ② 保育に関する法令及び制度を理解する。 ③ 保育所保育指針における保育の基本について理解する。 ④ 保育の思想と歴史的変遷について理解する。 ⑤ 保育の現状と課題について理解する。					
評価方法・基準					
授業態度（30％＝1％×30回）＋レポート（20％＝10％×2回）＋試験（50％）で評価					
履修上の注意点					
特になし					
教科書					
アクティベート保育学 保育原理：ミネルヴァ書房					
参考書					
幼稚園真諦：フレーベル館 倉橋惣三著 さあ、子どもたちの「未来」を話しませんか ～2017 年告示 新指針・要領からのメッセージ～：小学館 汐見稔幸著 光ほのかなれども～二葉保育園と徳永恕：現代教養文庫 上笙一郎・山崎朋子著					

	授 業 内 容
1回	オリエンテーション 「学び」と倉橋惣三の四層構造
2回	保育とは
3回	子ども主体の保育へ
4回	制度としての保育
5回	保育に関する法律
6回	保育に関する制度
7回	子ども理解とは
8回	子ども理解と保育者の専門性
9回	子ども理解と保育者の資質向上
10回	保育の歴史①
11回	保育の歴史②
12回	保育の歴史③ 【レポート①】
13回	健康と安全を考える①
14回	健康と安全を考える② 保育の方法①
15回	保育の方法②

	授 業 内 容
16回	保育と子育て支援①
17回	保育と子育て支援②
18回	保育と子育て支援③
19回	保育の内容について①
20回	保育内容について② 保育の計画と評価①
21回	保育の計画と評価② 【レポート②】
22回	多様性について①
23回	多様性について②
24回	地域連携・幼保小連携
25回	これからの保育の課題と展望①
26回	これからの保育の課題と展望②
27回	これからの保育の課題と展望③
28回	振り返り①
29回	振り返り②
30回	総まとめ・テスト

令和7年度シラバス

科目名		単位	担当教員名		
教育原理		2単位			
開講年次	1年次	科目区分	必修	授業形態	講義
科目概要					
(授業のテーマ) 1) 保育士資格を取得するにあたって「教育原理」をなぜ学ぶのか、教育原理とはどのような学問かについて概括的に学習します。 2) 我が国における教育内容や制度の歴史的変遷について学習します。 3) 諸外国の教育制度や教育の発展に寄与した教育学者の教育理念・思想について学習します。 4) 幼児教育を中心に児童福祉法、学校教育法及び、教育基本法について理解を深める。 5) 教育に関する権利、教育委員会、義務教育を規定する法律や教育基本法および、教育を規定する法律・学校教育法、施行規則等について学習を深める					
学習目標					
◎30回の各学習内容に伴う用語（学術用語）を正確に修得（理解）することを期待します ◎学習内容を理解し、正しく伝える（自分の意見を正確に発信）ことが出来る能力を習得すること が学習成果の目標です。（自分の考え方を誠実に伝える能力を培う） ◎自己の「学び方を学ぶ」姿勢を確立することが重要です。 ◎課題の発見と解決の方法を考え、具体的解決に導く能力を培うことを目指す					
評価方法・基準					
1. 配布資料の精読と自己研鑽 2. 筆記または、論述（小論文）試験（100％）評価基準は別途お知らせします。 3. 受講態度（－10％）・出欠席数・授業に対する取り組みの意欲と姿勢 （受講に直接必要のない行為・行動）					
履修上の注意点					
＊私語、及び遅刻は受講環境（学習環境）の破壊につながります。 ＊授業時数（出席に日数）の確保してください。 ＊学習の準備を十分に行うこと。（Readiness） ＊授業中、電子機器類は指示があるまで収納してください。 （授業中は補水以外の飲食は不可）					
教科書に代わり、オリジナル配布小冊子を使用します					
使用しない（配布プリントを使用します）					
参考書は必要に応じて紹介します。「補足資料集」使用					
必要に応じて適宜、紹介します					

	授 業 内 容
1回	「教育原理」の準備段階としてのguidance 及びorientation 「教育原理」科目の目的、目標を正確に理解して、30時間の授業を展望する
2回	「教育原理」という科目で学ぶこととは何か？について考える。 また、日本における「教育」は何によって保障、及び守られているのか。 憲法を中心に考える。
3回	「教育」とは何か？ について様々な方向から考える また、人間形成と教育について理解を深める。
4回	人間形成と教育についての要因および、遺伝・素質と環境について探究する。 また、 幼稚園と保育所における教育および保育の概要について理解する
5回	教育と児童福祉を理解する。児童福祉法の理念を理解する。また、さまざまな児童福祉施設についても理解を深め、保育士との関連を深く、広く理解することを学習の課題とします。
6回	子育て支援の現状について考えてみましょう。 少子化対策と各省庁の連携、子ども・子育て支援制度、幼保連携型認定こども園
7回	世界で初めての「絵本」とは？ コメニウスと近代教育について考えてみましょう
8回	なぜ、フレーベルを学ぶのか？ また、フレーベルの幼児教育が現代の保育とどのように関連づけられているかについて考える。
9回	ルソーとペスタロッチの教育思想が現代教育との関連について考えてみよう。 また、二人の著作の代表的なものについて考えてみましょう
10回	諸外国における教育の発展について概観する フランス、ドイツ、イギリスの教育についてその特徴を比較しながら考える
11回	諸外国における幼児教育の諸事情について概観的に理解する。 アメリカ、イギリス、スウェーデン、ニュージーランド、韓国について概観する。
12回	日本の幼稚園教育の始まりと戦後の社会の変化と幼児教育について学習する 幼児教育に関連の人物についてその人が与えた影響や成果を学ぶ
13回	幼児教育に関連の人物について知る。 日本の幼稚園教育始まりと戦後の社会の変化と幼児教育について学習する
14回	J., Condorcet, N Herbart, J.F., J Mill, J. S, Key, E, の教育思想を概観する
15回	最近の「教育」に関するテーマを表出して課題を書き出してみる 自分の意見を発信できる習慣を再度確認する ＊新聞記事を教材にして、教育無償化教育の機会均等を考える

	授 業 内 容
16回	教育制度の原型について考えてみましょう 基本的学問・教育の体系化とはどのようなものかについて学ぶ
17回	日本の教育制度の起源について理解する また、教育委員会組織や義務教育について理解を深める。
18回	教育格差の問題点を広い角度から考えその問題解決の糸口を探る学習をする。 各論として専門保育施設や保育者格差について学習を深める。
19回	教育を規定する様々な法律について学習をする。また、これらの法律の内容に関連について深く理解して国民生活と教育法規の現実を考えることとします。 —教育基本法や学校教育法、施行規則等—
20回	安全・安全を保障する学校経営と学校評価に関する「学校評価ガイドライン」について学習を深める。同時に学習評価の方法についても考える。 学校選択法についても認識を深めます。
21回	諸外国の教育制度について日本と比較しながら認識を深める。特に図を参照しながら年齢、学年、教育制度の段階について考えることにします。
22回	教育の実践について、基本となる「教育課程」について、用語とその内容について認識を深める。特に「カリキュラム」について種類と内容について理解する。
23回	日本の保育内容—領域、生活づくり、遊びと学習、— 保育の形態について学習を高める。
24回	保育の実践の中で教育の目標や実践方法について特徴がある。 モンテッソーリ、シュタイナーについて既学習を基により一層学習を深める。
25回	教育の分類として、大きくは家庭教育、学校教育、社会教育等があるが、生涯全体を通して「生涯学習」ということについて学習する。基本概念、基礎理論、—について学習を高める。
26回	現代教育の課題について網羅的に学習をする。 —理数教育の推進、グローバル人材育成、キャリア教育・・・—
27回	生涯における健康な社会生活のための幼児期～高齢期までの健康づくりについて問題点や実践可能な解決の端緒となる事柄を考える。
28回	日本の教育政策について確認する —教育振興基本計画、幼児教育の推進や質的向上— について理解を深める
29回	保育士の健康維持のための運動（腰痛予防）
30回	1－30時間の総まとめ学習 総合的評価：筆記試験をもって最終試験の評価とします。

令和7年度シラバス

科目名			単位	担当教員名	
子ども家庭福祉			2単位		
開講年次	1年次	科目区分	必修	授業形態	講義
科目概要					
(授業のテーマ) 子どもと子育て家庭の現状や課題及び子どもを取り巻く社会環境の変化に目を向け、歴史的変遷や子どもの人権、法制度や支援システムについて理解し、今後の動向や展望を考察する。子ども家庭福祉を担う専門職として、家庭の養育機能低下の背景を考え、子どもの最善の利益の保障と健やかな生活ができる社会について事例を交えながら理解を深めていく。					
(学習目標) 1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解する。 2. 子どもの人権擁護について理解する。 3. 子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。 4. 子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。 5. 子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。					
評価方法・基準					
授業出席・参加態度・・・・・・・・・・10％ コメントシート・・・・・・・・・・10％ 単位認定試験・・・・・・・・・・80％					
履修上の注意点					
子どもとその家庭の福祉を担う一員として、子どもに関わる報道に注視しておく。					
教科書					
児童育成協会（監修）、新保幸男・小林理（編集） 「子ども家庭福祉」第2 版(2023) 中央法規					
参考書					
適宜、講義の中で紹介する。					

	授 業 内 容
1回	オリエンテーション 子ども家庭福祉の学び方と授業の進め方
2回	子ども家庭福祉の理念と概念（１） ・子ども家庭福祉を理解するための方法及び子ども家庭福祉の基本構造
3回	子ども家庭福祉の理念と概念（２） ・児童という対象の特徴と児童の最善の利益の実現
4回	子どもの家庭福祉の歴史的変遷と諸外国の動向（１） ・子ども家庭福祉の歴史的展開と社会的支援
5回	子どもの家庭福祉の歴史的変遷と諸外国の動向（２） ・支援対象の多様化と新たな貧困への対応
6回	子どもの人権擁護（１） ・子どもの人権擁護の歴史と保育所保育指針にみる子どもの権利
7回	子どもの人権擁護（２） ・子どもの人権擁護と現代社会における課題と保育の専門職
8回	子ども家庭福祉の制度と実施体制（１） ・子ども家庭福祉の法制度と行財政と実施機関
9回	子ども家庭福祉の制度と実施体制（２） ・法制定・改正の流れとポイント及び子ども家庭福祉における実施体制と専門職
10回	子ども家庭福祉の施設と専門職（１） ・児童福祉施設の種類と保育所の位置づけ及び児童福祉施設の設置・運営
11回	子ども家庭福祉の施設と専門職（２） ・子ども福祉施設の専門職及び保育士の役割と児童福祉施設入所のしくみ
12回	少子化と地域子育て支援（１） ・少子高齢社会の到来と少子化対策の動向及び子育て支援
13回	少子化と地域子育て支援（２） ・子育て支援制度の概要と子育て支援の拡充
14回	母子保健と子どもの健全育成（１） ・母子保健の意義とわが国の歩み及び母子保健施策の概要
15回	母子保健と子どもの健全育成（２） ・児童健全育成の意義と概要及び母子保健サービスの動向

	授 業 内 容
16回	多様な保育ニーズへの対応（１） ・多様な保育ニーズに対応するためのしくみと教育・保育施設
17回	多様な保育ニーズへの対応（２） ・障がい児支援の現状と保育所における障がい児の受け入れ状況
18回	子ども虐待・ドメスティックバイオレンスとその防止（１） ・子ども虐待の定義と概要及びドメスティックバイオレンスと子ども虐待の関連
19回	子ども虐待・ドメスティックバイオレンスとその防止（２） ・子ども虐待防止とDV 防止
20回	貧困家庭・外国籍の子どもとその家庭への対応（１） ・子育て世帯の貧困及び外国籍の子どもとその家庭の実情や支援
21回	貧困家庭・外国籍の子どもとその家庭への対応（２） ・子どもの貧困対策とひとり親家庭の支援及び保育所の役割
22回	社会的養護（１） ・社会的養護の概念と施設
23回	社会的養護（２） ・社会的養護の課題と将来像
24回	障がいのある子どもへの対応（１） ・障がい児の福祉と障がい児支援の経過
25回	障がいのある子どもへの対応（２） ・障がい児支援の背景とポイント及びチームアプローチモデル
26回	少年非行等への対応 ・少年非行の状況と背景及び非行相談と施設入所
27回	次世代育成支援と子ども家庭福祉の推進 ・次世代育成支援としての子ども家庭福祉及び認定こども園と幼保連携
28回	地域における連携・協働とネットワーク（１） ・連携・協働の必要性和目的・場面及びネットワーク
29回	地域における連携・協働とネットワーク（２） ・保育の実践場面における連携・協働
30回	単位認定試験

令和7年度シラバス

科目名			単位	担当教員名	
社会福祉			2単位	二宮 翼	
開講年次	1年次	科目区分	必修	授業形態	講義
科目概要					
(授業のテーマ) 現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷についてを学ぶ。 社会福祉と児童福祉及び児童の人権や家庭支援との関連について学ぶ。 今日の社会福祉の動向と課題について学ぶ。					
(学習目標) 社会福祉の概観を理解することで、保育士としての役割を理解する。 今日の社会福祉について理解を深め、当事者性をもって課題に向き合う。					
評価方法・基準					
授業姿勢、レポート提出など					
履修上の注意点					
児童に携わるものとして、当事者意識をもって思案できる姿勢が望ましい。					
教科書					
新基本保育シリーズ④公益財団法人児童育成協会監修『社会福祉』中央法規2022 年					
参考書					
特になし					

	授 業 内 容
1回	社会福祉について
2回	保育士と社会福祉①
3回	保育士と社会福祉②
4回	子育てと社会保障①
5回	子育てと社会保障②（子育て世帯）
6回	子育てと社会保障③（ひとり親世帯）
7回	子育てと社会保障④（生活保護世帯）
8回	少子高齢化①
9回	少子高齢化②
10回	聞く技術・聞かれる技術
11回	保育における相談援助①
12回	保育における相談援助②
13回	社会福祉と相談援助①
14回	社会福祉と相談援助②
15回	社会福祉について考える

	授 業 内 容
16回	共生社会①
17回	共生社会②
18回	多様性と人権
19回	インクルーシブな社会①
20回	インクルーシブな社会②
21回	事例を考える①（障害の受容）
22回	事例を考える②（子どもの選択）
23回	事例を考える③（双子のジレンマ）
24回	事例を考える④（障害者年金）
25回	事例を考える⑤（支援者のあり方）
26回	事例を考える⑥（虐待）
27回	諸外国と社会福祉①
28回	諸外国と社会福祉②
29回	社会福祉の本質
30回	まとめ

令和7年度シラバス

科目名			単位	担当教員名	
子ども家庭支援論			2単位		
開講年次	1年次	科目区分	必修	授業形態	講義
科目概要					
(授業のテーマ) 子ども虐待の相談対応件数が増加し社会問題となっている。ハイリスクケースへのアプローチだけではなく、子ども虐待に至らないよう、ポピュレーションにおけるアプローチも重要となってくる。 子どもとその家庭への理解を深め、子育て家庭への支援に関する保育士としての基本姿勢や支援の内容、それを実践するための方法や技術について学ぶ。					
(学習目標) 子どもや家庭、保護者への支援について説明することが出来る。 現代社会における子育てをめぐる問題とその背景について理解する。 保育者として相談者への適切な配慮や具体的支援について例を挙げて説明することが出来る。 地域にある社会支援を調べ、説明することが出来る。					
評価方法・基準					
リアクションペーパー 30% 筆記試験 70%					
履修上の注意点					
リアクションペーパーに記載するテーマは、講義中に提示します。 記載内容は評価に入りますのでご注意ください。					
教科書					
保育と子ども家庭支援論 石動瑞代編著 みらい ISBN 978 - 4 - 86015 - 488 - 2 C3036					
参考書					
必要に応じて講義内で紹介する。					

	授 業 内 容
1回	ガイダンス 子ども家庭支援の意義と必要性 子ども家庭支援の基本的考え方
2回	子ども家庭支援の意義と必要性2 子ども家庭支援の基本的考え方2
3回	子ども家庭支援の意義と必要性3 子ども家庭支援の基本的考え方3
4回	子どもの権利1 子ども権利条約
5回	子どもの権利2 子どもの意見表明
6回	子ども家庭支援の目的と機能 子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進
7回	要保護児童及びその家庭に対する支援1 親への支援の重要性
8回	要保護児童及びその家庭に対する支援2 虐待による死亡
9回	要保護児童及びその家庭に対する支援3 児童虐待のその後
10回	家庭の状況に応じた支援 新たな親子関係を作る家庭への支援
11回	地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力 保育が子ども家庭支援に果たす役割
12回	保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援2 関係機関との連携・協力
13回	保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援3 地域子育て支援専門職としての支援と実際
14回	子育て家庭の福祉を図るための社会資源1 子育て家庭を支える社会資源の機能
15回	子育て家庭の福祉を図るための社会資源2 子育て家庭を支える社会資源の調査

	授 業 内 容
16回	子ども家庭支援の目的と機能1 子ども家庭支援の基本的視点1
17回	子ども家庭支援の目的と機能2 子ども家庭支援の基本的視点2
18回	子ども家庭支援の目的と機能3 子ども家庭支援の基本的視点3
19回	子どもの貧困の理解と家庭への支援1 子どもの貧困とは何か
20回	子どもの貧困の理解と家庭への支援2 子どもの貧困問題における支援の展開
21回	ヤングケアラーの支援 ヤングケアラーの実態と子どもへの支援
22回	保育士に求められる基本的態度1 相談を受ける者の基本的態度
23回	保育士に求められる基本的態度2 相談場面で必要な技術・子どもの育ちの喜びの共有
24回	保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援1 保育所等が行う地域子育て支援・外国と繋がりのある子どもの保育と支援
25回	子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進 子育て家庭を支える法律や制度
26回	保育の専門性を生かした子ども家庭支援とその意義 子ども家庭支援に関わる各種サービスと実際
27回	障がいをもつ子どもの理解と家庭への支援 日本における障がい児に関する現状・障がいのある子どもや家庭への支援の展開
28回	子ども家庭支援におけるソーシャルワーク1 保育現場に求められるソーシャルワーク・マッピング技法
29回	子ども家庭支援におけるソーシャルワーク2 多職種連携・子どもを中心とした連続性を持った支援
30回	試験

令和7年度シラバス

科目名			単位	担当教員名	
社会的養護 I A			1単位		
開講年次	1年次	科目区分	必修	授業形態	講義
科目概要					
(授業のテーマ) 社会的養護の歴史の変遷ならびに現代社会における役割と意義について理解する。 社会的マイノリティ、子どもの権利、子どものwell-being、貧困、虐待といった保育者としての基本的知識の理解を深める。					
(学習目標) 社会的養護の概観を理解する。 現代における社会的養護に隣接する福祉の課題を学び、理解する。					
評価方法・基準					
授業姿勢、レポート提出など					
履修上の注意点					
子どもの人権について当事者意識をもって、思案できる姿勢が望ましい。					
教科書					
社会的養護1（図解で学ぶ保育） 萌文書林					
参考書					
特になし					

	授 業 内 容
1回	現代における福祉の位置付け
2回	社会的養護の歴史
3回	現代における社会的養護
4回	現代における社会的養護の課題
5回	子どもの貧困
6回	社会的養護と障害
7回	児童相談所の役割
8回	家庭養護のしくみ
9回	施設養護のしくみ
10回	児童の権利に関する条約について
11回	児童に関する法律
12回	子どもの人権①
13回	子どもの人権②
14回	子どもと向き合う
15回	まとめ

令和7年度シラバス

科目名			単位	担当教員名	
保育者論A			1単位		
開講年次	1年次	科目区分	必修	授業形態	講義
科目概要					
(授業のテーマ) 1. 保育者としての意義・役割・多様な職務に関する知識・理解を深める。 2. 保育者としての資質や専門性を理解する中で、現代に求められる理想の保育者像を明確化する。					
(学習目標) 保育者の仕事と役割、保育者になるための学び、保育士の制度的な位置づけ、保育者の職務等を題材にして、あるべき保育者像について学び、考えていく。 保育者の仕事と職務を正しく認識することができるようにする。 保育と指導技術についての基礎・基本的な知識・技術を習得することができるようにする。 子育て支援の社会的意味・意義についての認識を正しく持つことができるようにする。 これからの保育者に期待される幅広い知識・教養・技術・技能、コミュニケーション能力、実践研究能力、組織的活動能力の基礎を習得することができるようにする。					
評価方法・基準					
出席状況・授業態度・積極性、試験成績等を総合的に評価する。					
履修上の注意点					
・ 保育者を目指す者として、目的意識・課題意識を明確にして授業に臨むこと					
教科書					
「保育者論(アクティベート保育学2)」汐見稔幸(ミネルヴァ書房)					
参考書					
参考資料を配布する					

	授 業 内 容
1回	オリエンテーション
2回	保育者になるために 保育の免許・資格
3回	幼稚園教諭・保育士の仕事とその一日 現場の様子
4回	遊びを援助する
5回	個と集団
6回	家庭や地域と連携・支援
7回	内面や発達を理解
8回	多様な子どもの理解と支援
9回	保育現場の様子①
10回	教材と学び
11回	保育者とは①
12回	保育者とは②
13回	保育の専門性
14回	保育現場の様子②
15回	まとめ

令和7年度シラバス

科目名			単位	担当教員名	
保育者論B			1単位		
開講年次	1年次	科目区分	必修	授業形態	講義
科目概要					
(授業のテーマ) 保育士の制度的位置づけ、社会的役割と必要とされる専門能力を理解し、保育者にふさわしい資質を自ら養おうとする態度を養う。					
(学習目標) 社会人としての基本的あり方、保育者の倫理観、乳幼児保育の基礎知識・技能、保護者支援の方法等、具体的な保育方法の学習とともに、社会的な保育の動向など幅広い視点も含め、保育の専門家としての見識を持つように学習を行う。					
評価方法・基準					
出席状況・授業態度・積極性・試験成績等を総合的に評価する。					
履修上の注意点					
教科書					
保育所保育指針解説 平成29年告示（フレーベル館）					
参考書					
適宜、参考資料を配布します。					

	授 業 内 容
1回	保育者への期待と専門性の向上Ⅰ
2回	↓
3回	まとめ
4回	保育者への期待と専門性の向上Ⅱ
5回	↓
6回	まとめ
7回	保育者への期待と専門性の向上Ⅲ
8回	↓
9回	まとめ
10回	保育者への期待と専門性の向上Ⅳ
11回	↓
12回	まとめ
13回	保育者への期待と専門性の向上Ⅴ
14回	↓
15回	試験

令和7年度シラバス

科目名			単位	担当教員名	
保育の心理学			2単位		
開講年次	1年次	科目区分	必修	授業形態	講義
科目概要					
(授業のテーマ)					
1. 発達科学の諸理論を学び、子どもや養育環境に対する保育士としての専門的な視座を確立することを目的とする。 2. 子どもを取り巻く複雑で多様な課題を理解し、その課題に立ち向かうための多職種による連携・協働についても取り扱う。					
(学習目標)					
1. 保育実践の基盤となる概念や理論について他者と意見を交流し、深く理解することができる。 2. 保育実践の基盤となる概念や理論について保育士以外の専門家や養育者にも伝わるように説明することができる。					
評価方法・基準					
・出席 30%…出席は重要な課題 ・授業・実習の参加態度 30%…積極的な参加を期待 ・テスト（もしくはレポート課題）40%…知識の定着の努力					
履修上の注意点					
・話し合いの場に積極的に参加すること。					
教科書					
やさしく学ぶ保育の心理学Ⅰ・Ⅱ（第2版） 浜崎隆司、田村隆宏、湯地宏樹（ナカニシヤ出版）					
参考書					
・保育の心理学―育ってほしい10の姿（中山書店）					

	授 業 内 容
1回	オリエンテーション
2回	子どもの発達を理解することの意義について
3回	ディスカッション①—生涯発達のイメージについて
4回	健康な心と体について
5回	発達障害と精神疾患—乳幼児と保護者に着目して
6回	ディスカッション②—対人援助職の専門性について
7回	認知発達理論と子ども観—ピアジェの理論
8回	認知発達理論と子ども観—ヴィゴツキー、ワロン、ブルーナーの理論
9回	言語発達理論—チョムスキー、トマセロ、ブルーナーの理論
10回	乳幼児の学びと理論—思考力と遊びの関係性
11回	自然との関わりと生命尊重
12回	ディスカッション③—国際比較から見る日本の保育、教育の現状について
13回	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
14回	言葉による伝え合い—言語の機能と獲得、コミュニケーションの発達
15回	ディスカッション④—メリトクラシーと保育

	授 業 内 容
16回	豊かな感性と表現—感性の発達と創造性
17回	自立心—認知的スキル、社会情動的スキル、自己効力感と自己肯定感
18回	ディスカッション⑤—自己肯定感を育むための方法
19回	協同性—社会性の発達、愛着理論
20回	児童虐待と子育て支援について—虐待事例とその対応から
21回	ディスカッション⑥—児童虐待はなぜ起こるのか
22回	道徳性・規範意識の芽生え—道徳・正義感の発達
23回	特別講義—小学校における道徳教育の展開と幼保小連携について
24回	ディスカッション⑦—学校臨床における教育実践と実情について
25回	社会生活との関わり—社会適応能力の発達
26回	乳幼児の学びと発達を支える保育
27回	子育て支援と保護者対応—カウンセリングマインドと親ガイダンス
28回	単位認定テスト
29回	ディスカッション⑧—若者の現状と課題、日本の社会モデルの課題について
30回	講座の振り返り

令和7年度シラバス

科目名			単位	担当教員名	
子どもの保健			2単位		
開講年次	1年次	科目区分	必修	授業形態	講義
科目概要					
(授業のテーマ)					
保育所保育指針 総則（２）保育の目標に、“十分に養護の行き届いた環境下に、くつろいだ雰囲気の中で子どもの様々な欲求を満たし、生命の保持及び情緒の安定を図ること”とあります。この目標を達成するために必要な“子どもの保健”の意義を考え、子どもの命を守り健やかな育ちを支えるために必要な子どもの成長・発達、心身の健康に関して、知識や技能を学ぶとともに保育現場で生かせる力を身に付けることをテーマとします。					
(学習目標)					
・子どもの心身の健康と保健活動の意義がわかる ・子どもの身体的発育・発達についてわかる ・子どもの心身の健康状態とその把握についてわかる ・子どもの疾病の予防及び適切な対応についてわかる					
評価方法・基準					
授業への参加姿勢・出欠 20％ テスト 80％					
履修上の注意点					
授業は教科書に沿って進めるが、進度によっては変更する可能性あり。					
教科書					
『子どもの保健テキスト』 編著 小林美由紀 診断と治療社					
参考書					
随時提示する					

	授 業 内 容
1回	ガイダンス
2回	第1章 子どもの健康と保健 ①保健活動の意義と目的
3回	②子どもの出生と母子保健の意義
4回	③現代社会における子どもの健康に関する現状と課題
5回	第2章 子どもの発育と発達 ①子どもの身体発育と運動機能の発達
6回	②生理機能の発達と生活習慣
7回	第3章 地域における保健活動と子どもの虐待防止（１） ゲスト講師 子どもアシストセンター 子どもの権利調査員 祐川 絵理香氏
8回	質疑応答・休憩含め 90分
9回	地域における保健活動と子どもの虐待防止（２）
10回	第4章 子どもの健康状態の観察と体調不良時の把握 ①子どもの健康状態の把握
11回	②子どもの体調不良時によくみられる症状（１）
12回	②子どもの体調不良時によくみられる症状（２）
13回	第5章 子どもの病気 ①子どもの免疫の発達と感染症の特徴
14回	②感染症の予防および適切な対応（１）
15回	②感染症の予防および適切な対応（２）

	授 業 内 容
16回	③救急疾患の特徴と適切な対応（１）
17回	③救急疾患の特徴と適切な対応（２）
18回	◇事例交流・検討
19回	第5章 子どもの病気 ③救急疾患の特徴と適切な対応 2 事故やけがの時の特徴と対応（１）
20回	2 事故やけがの時の特徴と対応（２）
21回	◇事例交流・検討
22回	④新生児の病気、新生児期にわかる先天性の病気の特徴と対応
23回	⑤アレルギー疾患の特徴と適切な対応（１）
24回	⑤アレルギー疾患の特徴と適切な対応（２）
25回	⑥慢性疾患の特徴と適切な対応（１）
26回	⑥慢性疾患の特徴と適切な対応（２）
27回	◇事例交流・検討
28回	まとめ・テスト
29回	◇事例交流・検討
30回	◇事例交流・検討

令和7年度シラバス

科目名			単位	担当教員名	
保育の計画と評価A			1単位		
開講年次	1年次	科目区分	必修	授業形態	講義
科目概要					
(授業のテーマ)					
1. 保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき保育計画が作成されることを知る。 2. 保育の様々な計画について学ぶ。 3. 実践、評価、改善を基にして計画をたてるというPDCAサイクルを理解する。					
(学習目標)					
1. 保育計画は「目の前の子どもの姿とその子どもの育ちを願いたてられる」ことを理解する 2. 保育の様々な計画と、作成について理解を深める。 3. 指導計画の形式、用語、文例に慣れ、書き方の基礎を身につける。					
評価方法・基準					
出席状況、授業に参加する学習態度50％・指導案50％ ※指導案は、基礎を踏まえていること、積極的に練習をしていること、提出期限等の自己管理ができている等を総合的に評価する。					
履修上の注意点					
・授業内で指導案が完成しない場合、次の授業までに必ず完成させてくること。 ・提出物の管理は必ず自分で言い、提出期限を守ること。					
教科書					
教育課程・保育の計画と評価(萌文書林)					
参考書					
保育所保育指針					

	授 業 内 容
1回	保育とは何か
2回	保育で重視していること～環境を通した保育・遊びを通しての指導
3回	保育の計画書類の書き方
4回	子どもの育ちと保育 ～育みたい資質・能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿
5回	保育計画の仕組み①～教育課程・全体的な計画
6回	保育計画の仕組み②～指導計画・反省と評価
7回	認定こども園・幼稚園における計画
8回	保育所における全体的な計画と保育の実際
9回	保育園のデイリープログラム・乳児の指導計画
10回	指導計画の作成の基本とその方法①
11回	指導計画の作成の基本とその方法②
12回	指導計画の作成の基本とその方法③
13回	保育の実践と評価について ～評価のポイント・要録
14回	特別な支援を要する子どもの指導計画（支援計画）
15回	テスト

令和7年度シラバス

科目名		単位		担当教員名	
乳児保育Ⅰ		2単位			
開講年次	1年次	科目区分	必修	授業形態	講義
科目概要					
(授業のテーマ)					
0歳～3歳未満児の発達上の特徴、基本的な知識について学ぶ。 乳児に関わる保育者の役割を理解し、援助・配慮点、環境構成を学ぶ。 乳児の保育計画や、保護者への支援について学びを深める。					
(学習目標)					
1 乳児保育の意義・目的及び役割について理解する。 2 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育内容と環境構成について理解する。 3 保育者間の連携・保護者や地域との連携について理解する					
評価方法・基準					
出席・学習意欲・態度50％ 提出物・テスト等50％					
履修上の注意点					
・理論の理解を深めるために関連演習も適宜行う。主体的に参加し考える習慣をつける。 ・ワークプリントは自己学習のために配布する。 ・乳児保育の計画と評価の単位では、指導案の提出がある。					
教科書					
新基本保育シリーズ15 乳児保育Ⅰ・Ⅱ（中央法規）					
参考書					
保育所保育指針					

	授 業 内 容
1回	オリエンテーション
2回	乳児保育の意義・目的と変遷
3回	乳児保育および家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題
4回	保育所における乳児保育
5回	児童福祉施設・家庭的保育・小規模保育等における乳児保育
6回	関連演習～ 乳児の生活援助の実際
7回	小テスト
8回	3歳未満児の生活と環境①
9回	3歳未満児の生活と環境②
10回	3歳未満児の遊びと環境①
11回	3歳未満児の遊びと環境②
12回	関連演習～ 応答的に行われる保育
13回	3歳以上児の保育に移行する時期の保育①
14回	3歳以上児の保育に移行する時期の保育②
15回	関連演習～ 追視 ・ 手指の発達

	授 業 内 容
16回	発達をふまえた保育者による援助やかかわり①
17回	発達をふまえた保育者による援助やかかわり②
18回	確認ワーク
19回	発育・発達をふまえた保育における配慮①
20回	発育・発達をふまえた保育における配慮②
21回	確認ワーク
22回	乳児保育の計画・記録・評価①
23回	乳児保育の計画・記録・評価②
24回	乳児の指導案
25回	職員間の連携・協働
26回	保護者との連携・協働
27回	自治体や地域の関係機関等との連携・協働
28回	まとめ①
29回	最終テスト
30回	まとめ②

令和7年度シラバス

科目名			単位	担当教員名	
保育のシゴトA			2単位		
開講年次	1年次	科目区分	必修	授業形態	講義
科目概要					
(授業のテーマ) 保育職を幅広く多角的な視点から捉えられるような能力を養う。 また、子どもを取り巻く地域社会や子育て環境に目を向け、より実践的な取り組みを企画・運営し、保育実践に必要な知識や技能を習得する。					
(学習目標) 社会人としての基本的あり方、保育者の倫理観、乳幼児保育の基礎知識・技能、保護者支援の方法等、具体的な保育方法の学習とともに、社会的な保育の動向など幅広い視点も含め、保育の専門家としての見識を持つように学習を行う。					
評価方法・基準					
出席状況・授業態度・積極性等を総合的に評価する。					
履修上の注意点					
教科書					
参考書					
適宜、参考資料を配布する。					

	授 業 内 容
1回	※ 全30コマの授業内容については、適宜、別途周知。
▼ 30回	

令和7年度シラバス

科目名			単位	担当教員名	
文章表現			1単位		
開講年次	1年次	科目区分	必修	授業形態	演習
科目概要					
(授業のテーマ) 本科目では、保育士にとって必要となる文章作成スキルの習得を目的とする。 保育士は、日々の保育活動の中で、連絡帳、保育記録、園だよりなど、 さまざまな文章を作成する必要がある。文章作成の基礎スキルを身につけることで、 コミュニケーションを円滑にすることを目指す。					
(学習目標) ・文章作成に必要な基礎知識の習得 ・保育士が作成する書類の基礎知識の習得					
評価方法・基準					
・出席等の授業姿勢 ・演習レポート（期限内に提出）					
履修上の注意点					
・書く努力をすること					
教科書					
・保育の現場ですぐに使える！伝わる文章&話し方のきほん（日本文芸社）					
参考書					

	授 業 内 容
1回	文章表現能力とは
2回	文章作成・構成の基本知識
3回	実践演習①（文章構成）
4回	フィードバック
5回	文章作成に役立つツール
6回	実践演習②（文章構成2）
7回	グループワーク
8回	ビジネス文章の基礎知識
9回	実践演習③（ビジネス文書）
10回	フィードバック
11回	お礼状の基礎知識
12回	実践演習④（お礼状）
13回	フィードバック
14回	実践演習⑤
15回	グループワーク

令和7年度シラバス

科目名			単位	担当教員名	
情報処理			1単位		
開講年次	1年次	科目区分	必修	授業形態	演習
科目概要					
(授業のテーマ) 保育現場における業務の多様化・多忙化・高度化が起きている。さまざまな情報機器の導入やデジタル化、事務作業の多様化から求められている資質・能力が高度化した。これらのことから情報機器の基本操作を学び、作業能力の向上に資することを目的とする。主に文書作成ソフトウェア・表計算ソフトウェア・プレゼンテーションソフトウェアの操作方法を講義と演習で学び、個人情報・著作権の保護、セキュリティについての知識もあわせて身につける。					
(学習目標) ・情報リテラシー（知的財産権、引用・剽窃・出典など、情報モラル、情報セキュリティ）の知識を身につける。 ・文書作成ソフトウェアを用いて、文書作成・表作成・図形描画を学ぶ。 ・表計算ソフトウェアを用いて、表作成・基本関数・グラフを学ぶ。 ・プレゼンテーションソフトウェアを用いて、スライド作成・特殊効果の設定を学ぶ。					
評価方法・基準					
出席・授業態度：30％ 情報リテラシーの課題：10％ 文書作成ソフトウェアの課題：20％ 表計算ソフトウェアの課題：20％ プレゼンテーションソフトウェアの課題：20％					
履修上の注意点					
毎回USB メモリを持参すること					
教科書					
教科書なし 適宜プリント配付					
参考書					
なし					

	授 業 内 容
1回	オリエンテーション 情報リテラシー：情報モラル、知的財産権、出典・引用・参照、情報セキュリティ
2回	文書作成ソフトウェア：Word① USBの使い方、データコピー、基本操作（均等割付け、フォント、ルビ・オフセット）
3回	文書作成ソフトウェア：Word② 入力練習（書式：段落→固定値）、ページ設定、オプション操作
4回	文書作成ソフトウェア：Word③ ビジネス文書（右揃え、中央揃え、文字修飾）、ヘッダー/フッター
5回	文書作成ソフトウェア：Word④ 罫線の操作、罫線処理（セルの結合、線種、表ツール利用）
6回	文書作成ソフトウェア：Word⑤ 罫線の応用（セル内の上下中央揃え、テーブルデザイン）
7回	文書作成ソフトウェア：Word⑥ <文書デザイン> 図形描画、ワードアート、図の編集、ストック画像、オンライン画像、3Dモデル
8回	表計算ソフトウェア：Excel① （基本操作Ⅰ）シートコピー、行列の挿入・削除、行列の表示・非表示など
9回	表計算ソフトウェア：Excel② （基本操作Ⅱ）表作成、四則演算、相対参照と絶対参照、達成率と構成比の求め方
10回	表計算ソフトウェア：Excel③ （基本関数）SUM、AVERAGE、MAX、MIN、COUNT関数など
11回	表計算ソフトウェア：Excel④ グラフ作成、表データとグラフの印刷設定およびヘッダー・フッター
12回	文書作成ソフト&表計算ソフトウェア（まとめ） Excelデータを活用し、Word文書を完成させる、スクリーンショット
13回	プレゼンテーションソフトウェア：PowerPoint① スライド（入力・デザイン）、アイコンの挿入、3Dモデル、スライドショー
14回	プレゼンテーションソフトウェア：PowerPoint② アニメーション・画面切り替え効果、表・グラフ作成、SmartArt、印刷形式について
15回	プレゼンテーションソフトウェア：PowerPoint③ 課題作成

令和7年度シラバス

科目名			単位	担当教員名	
子どもの食と栄養			2単位		
開講年次	1年次	科目区分	必修	授業形態	演習
科目概要					
(授業のテーマ) 乳幼児期は食習慣の基礎が培われる重要な時期であり、子どもの食生活は保護者と園での生活を支援する保育者の食環境が大きな影響を与える。 子どもの栄養と食生活は生涯にわたる健康の基礎となることを理解し、保育の場での食環境の重要性を学ぶ。 また、食事は栄養補給だけが目的ではなく、心を満たす大きな役割があることを理解する。					
(学習目標) (1) 発達発育の時期に重要な栄養素とその働きについて理解し、説明することができる。 (2) 現代の子どもや保護者を取り巻く環境を理解し、保育者として問題解決する方法を考え、説明することができる。 (3) 食育の基本とその内容を理解し、乳幼児や保護者を対象とした食育教材を作成し、その意図を説明することができる。					
評価方法・基準					
筆記試験（50％）、授業への参加状況（30％）、レポート・実践発表（20％）					
履修上の注意点					
専門職を目指すものとしての自覚をもって、自ら課題を持ち、意欲的に学ぶこと。					
教科書					
小川雄二編著『子どもの食と栄養演習〔第6 版〕』（建帛社）ISBN 978-4-7679-5138-6					
参考書					
なし					

	授 業 内 容
1回	子どもの健康と食生活の意義
2回	子どもの健康と食生活の意義
3回	栄養と食品に関する基礎知識（1）栄養の基本的概念と栄養素の働き
4回	栄養と食品に関する基礎知識（1）栄養の基本的概念と栄養素の働き
5回	栄養と食品に関する基礎知識（2）日本人の食事摂取基準
6回	栄養と食品に関する基礎知識（2）日本人の食事摂取基準
7回	栄養と食品に関する基礎知識（3）食品の基礎知識と献立作成と調理の基本
8回	栄養と食品に関する基礎知識（3）食品の基礎知識と献立作成と調理の基本
9回	子どもの発育・発達と栄養生理（1）子どもの発育と発達
10回	子どもの発育・発達と栄養生理（2）子どもの栄養と生理①
11回	子どもの発育・発達と栄養生理（3）子どもの栄養と生理②
12回	子どもの発育・発達と食生活（1）授乳期①
13回	子どもの発育・発達と食生活（2）授乳期②
14回	子どもの発育・発達と食生活（3）離乳期①
15回	子どもの発育・発達と食生活（4）離乳期②

	授 業 内 容
16回	子どもの発育・発達と食生活（5）幼児期
17回	子どもの発育・発達と食生活（5）幼児期
18回	子どもの発育・発達と食生活（6）学童期・思春期
19回	子どもの発育・発達と食生活（7）妊娠期
20回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養
21回	家庭や児童福祉施設における食事と栄養
22回	食育の基本と内容（1）食育における養護と教育の一体性
23回	食育の基本と内容（2）食育の内容と計画および評価・食育の指導案作成①
24回	食育の基本と内容（4）食育の指導案作成②
25回	幼児の食に関する指導（1）食育媒体の作成①
26回	幼児の食に関する指導（2）食育媒体の作成②
27回	幼児の食に関する指導（3）食育媒体の作成③
28回	幼児の食に関する指導（4）発表
29回	幼児の食に関する指導（5）発表
30回	筆記試験

令和7年度シラバス

科目名			単位	担当教員名	
保育内容総論			1単位		
開講年次	1年次	科目区分	必修	授業形態	演習
科目概要					
(授業のテーマ) 1. 保育内容とは何かを学び、保育内容を構成する「養護」と「教育」の一体制を理解する。 2. 保育所保育指針の資質・能力や、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿、5領域について理解し、それらが総合的に関連している事を学ぶ。 3. 保育者の専門性について学び、学生同士で事例検討を行い学びを深める。					
(学習目標) 1. 乳幼児期は、生涯の人格形成を培う重要な時期であることを理解し、子どもの最善の利益とはどのようなことかを学び、保育士としての役割を理解する。 2. 子どもや保護者を取り巻く社会背景や保育の歴史の変遷を踏まえ保育内容の展望と課題を理解する。 3. 保育の多様性について（障がい児保育、延長保育、一時保育等）理解し、子育て支援も含め具体的な保育内容を知る。					
評価方法・基準					
・出席状況 20％ ・授業態度 40％ ・試験 40％					
履修上の注意点					
お互いの思いや考え方を尊重し、自分の思いや考え方を述べる					
教科書					
保育内容総論（中央法規）					
参考書					
保育所保育指針解説 平成29年告示（フレーベル館）					

	授 業 内 容
1回	保育所保育指針に基づく保育の全体構造
2回	保育所保育指針に基づく保育内容の理解①養護
3回	保育所保育指針に基づく保育内容の理解②教育
4回	保育内容の歴史的歴史的変遷とその社会的背景
5回	子どもの発達や生活に即した保育内容の基本的な考え方
6回	養護と教育が一体的に展開する保育
7回	子どもの主体性を尊重する保育
8回	環境を通して行う保育
9回	生活や遊びによる総合的な保育
10回	個と集団の発達を踏まえた保育
11回	家庭や地域等との連携をふまえた保育 小学校との連携をふまえた保育
12回	長時間の保育
13回	特別な配慮を要する子どもの保育
14回	多文化共生の保育
15回	試験

令和7年度シラバス

科目名			単位	担当教員名	
保育内容演習（表現）			1単位		
開講年次	1年次	科目区分	必修	授業形態	演習
科目概要					
(授業のテーマ) 保育内容を構成する5領域のひとつである「表現」では、表現活動が子ども自身の心の中にどのように広がり深まっていくのかを習得する。 また、音楽・造形・身体表現の基礎知識を深めながら、保育現場で実際にどのように援助活動がすすめられるのか体得する。					
(学習目標) より実践的なグループワーク等の演習を通し、常に保育現場にいる子どもたちの姿を感じながら、子どもの心に寄り添う表現技術の習得を目標とする。					
評価方法・基準					
出席状況・授業態度・積極性等を総合的に評価する。					
履修上の注意点					
教科書					
表現の指導法（田澤里喜 編著・玉川大学出版部）					
参考書					
適宜、参考資料を配布する。					

授 業 内 容	
1回	オリエンテーション
2回	領域「表現」とは 5つの領域について
3回	領域「表現」の変遷 保育所保育指針における表現
4回	生活の中における子どもの表現 倉橋惣三「生活を生活で生活へ」
5回	日常における表現あそび（事例1）
6回	日常における表現あそび（事例2）
7回	乳幼児期における音楽表現について 音楽表現のねらいと立場
8回	教育環境から見た音楽表現
9回	音楽表現の実例（事例） ハンドベル・楽器
10回	造形表現について 造形表現の基礎知識
11回	造形表現をはぐくむために
12回	子どもの造形表現を理解する
13回	身体表現について 保育者の身体表現の実例
14回	運動遊び
15回	まとめ 保育所保育指針小テスト④

令和7年度シラバス

科目名			単位	担当教員名	
保育内容演習（環境）			1単位		
開講年次	1年次	科目区分	必修	授業形態	演習
科目概要					
(授業のテーマ) 保育現場や実習等で生かす為、発達年齢に合わせた環境作りをより深く学び、子どもや保護者が安心して育ち、育てあえる魅力的な環境を考える。 国内外の映像資料を見たり、実際に保育現場等をテレビ会議システムで繋ぎ、子ども・保育者の目線で見た環境を知るなど、より実践的に学んでいく。					
(学習目標) 現在の子ども達が置かれている生活環境や保護者の現状、国や行政の政策や指針を理解し、保育者の役割と保育環境の重要性を理解する。周囲の様々な環境に好奇心や探究心を持ってかわり、それらを園生活に取り入れていこうとする力を保育者自身が養い魅力ある保育環境を目指す。					
評価方法・基準					
①平常点：毎回授業時に課す簡単な課題への回答（40%） ②課題：模擬指導案への評価（10%） ③試験：第14 回に実施し、講義内容に関する理解度を論述にて評価。（50%）					
履修上の注意点					
学生が考え討議し発表することを大切に、興味関心を持って授業に主体的参加をすること。					
教科書					
指定教科書なし					
参考書					
『保育所保育指針解説書』厚生労働省 フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 『現場の視点で新要領・指針を考えあう』 大宮勇雄・川田学・近藤幹生・島本一男編 ひとなる書房					

	授 業 内 容
1回	オリエンテーション、指針・要領における5 領域
2回	領域「環境」のねらい、内容、内容の取り扱い
3回	人的環境として子ども達に大きな影響を与える保育者の重要性とあるべき姿・援助
4回	生活に関係の深い情報や施設に興味や関心をもつこと
5回	自然に親しみ、植物や生き物に触れること
6回	季節により自然や生活に変化のあることに気付くこと
7回	さまざまな物や道具にかかわって遊ぶこと さまざまな物に触れ、その性質や仕組みに興味や関心を持つこと
8回	日常生活の中で数量や図形などに関心を持つこと 日常生活の中で簡単な標識や文字などに関心をもつこと
9回	保育内容「環境」に関連する模擬指導案作成
10回	乳幼児期の環境とのかかわりの特徴（好奇心、探究心）
11回	現代の子どもを取り巻く環境と領域「環境」
12回	保育内容「環境」に関連する環境構成の工夫
13回	まとめ、振り返り、子どもを取り巻く環境（オンライン保育参観）
14回	試験
15回	続子どもを取り巻く環境（オンライン保育参観）

令和7年度シラバス

科目名		単位	担当教員名
保育内容の理解と方法（音楽表現）		1単位	
開講年次	1年次	科目区分	必修
		授業形態	演習
科目概要			
（授業のテーマ） 音楽理論（楽典）と実践で基礎となる音符・リズム・指使い・伴奏コードを学び、簡単な伴奏法で弾く			
（学習目標） 1. 課題曲「おべんとう」で ♩ リズムを正しく弾けるようにする。 2. 自主練習で弾き歌いにも慣れる。			
評価方法・基準			
・音楽理論 50点満点 ・ピアノ実技 50点満点 弾き歌いが出来ていれば、さらに評価加味する。			
履修上の注意点			
・新しい曲にとりかかる時は右手から（片手ずつ）音符、指使い、リズム等を正しく読譜すること ・弾きにくい箇所を反復練習することが上達の早道			
教科書			
「大人のための音楽ワーク」 プリントした楽譜（レベル1とレベル3用意有り）			
参考書			

	授 業 内 容
1回	テキストの①章 五線と音の高さ
2回	みつばちマーチ、メリーさんの羊、ぶんぶんぶん、チューリップでコード（C、F、G7）の練習
3回	課題曲「おべんとう」片手ずつ
4回	テキスト②章 音名と変化記号
5回	「おべんとう」片手ずつ～両手
6回	「おべんとう」片手ずつ～両手
7回	テキスト③章 音符と休符
8回	「おべんとう」両手
9回	山の音楽家
10回	テキスト④章 拍子
11回	「おべんとう」
12回	大きな栗の木の下で
13回	音楽理論テスト
14回	「おべんとう」弾き歌いテスト
15回	「おべんとう」弾き歌いテスト

※授業の進捗状況によって適宜変更の可能性もありますのでご承知おきください。

令和7年度シラバス

科目名			単位	担当教員名	
保育内容の理解と方法（身体表現）			1単位		
開講年次	1年次	科目区分	必修	授業形態	演習
科目概要					
（授業のテーマ） 自分の身体表現を自覚することは、子どもの身体表現を理解することにもつながる。また、子ども達に身体表現の楽しさを伝えるためには、自らがその楽しさを体感している必要がある。身体表現を通して、子どもの感性・意欲・創造性を育む援助・指導ができるようになるために自身の身体・身体感覚と向き合い、物や他者と関わりながら身体を使ったあそびや表現を楽しみ、自信をつけましょう。					
（学習目標） ・身体に関する基礎的知識の理解を深め、身体を動かすことや身体で表現することの楽しさを味わうこと。また、幼児にとっての身体表現の重要性を知ること。 ・子どもの発達過程と身体表現の関連について理解すること。 ・指導者としての「表現力」「ことばかけ」を理解し、より良い身体表現活動ができる知識と技術を身につけること。					
評価方法・基準					
出席・学習態度 60% 毎回のレポート 15% 試験（最終授業）25%					
履修上の注意点					
実技と理論の授業形式 偏らないように出席すること。 実技は運動に相応しい服装で臨むこと。 積極的な姿勢で参加すること。 プリント類は各自ファイルにまとめて管理・保管。					
教科書					
参考書					
～すこやかな子どもの心と体を育む～ 運動遊び 建帛社 子ども・からだ・表現 ～豊かな保育内容のための理論と演習～ 市村出版 保育表現技術 豊かに育つ・育てる身体表現 ミネルヴァ書房					

	授 業 内 容
1回	講義 オリエンテーション 身体表現とは。
2回	講義 乳幼児の身体と発育発達
3回	講義 乳幼児の運動機能の発達
4回	実技 身体表現の基本：自分に身体の状態を知る・からだほぐし・からだづくり
5回	実技 リズム運動・表現運動・ダンス
6回	実技 物を関わる身体表現あそび
7回	実技 身体表現の基本：自分の身体の状態を知る・からだほぐし・からだづくり
8回	実技 リズム運動・表現運動・ダンス
9回	実技 人と関わる身体表現遊び
10回	実技 身体表現の基本：からだほぐし・からだづくり・からだ自由に動かす
11回	実技 実技のまとめ・身体表現グループワーク
12回	実技 身体表現グループワーク
13回	講義 実技と講義のまとめ
14回	講義 乳幼児の心の発達
15回	講義 まとめ確認テスト（プリント持ち込み可）

令和7年度シラバス

科目名			単位	担当教員名	
保育内容の理解と方法（造形表現）			1単位		
開講年次	1年次	科目区分	必修	授業形態	演習
科目概要					
（授業のテーマ） 保育における「造形表現」の意味を理解し（理念の把握）、その意味を具現化するための方法を体得する（方法の体得）。 ■理念の把握：造形表現（造形性・創造性・人間性）についての理解を深める。 ■方法の体得：教材の試作を通して、造形表現の方法を体得する。					
（学習目標） ■造形性・創造性・人間性という3つの観点を踏まえて、造形表現の意味を説明できる。 ■教材の試作に基づいて、造形表現の意味を具現化するための方法を説明できる。					
評価方法・基準					
授業参加度・出席態度・スケッチブック・制作過程・制作物をみて総合的に評価する。					
履修上の注意点					
忘れ物厳禁【スケッチブック、水彩絵の具、パレット、水入れ、筆、雑巾、クレパス、はさみ、のりなど】					
教科書					
なし					
参考書					
「新造形表現 実技編」編著 花篤實・岡田愨吾、「美術教育概論」日本文教出版（改訂版）、「GIFTS FROM THE CHILDREN 子どもたちからの贈りもの—レジャ・エミリアの哲学に基づく保育実践」秋田喜代美 著（萌文書林）、「ハーバード・プロジェクト・ゼロの芸術認知理論とその実践」池内慈朗 著（東信堂）					

	授 業 内 容
1回	「オリエンテーション1」授業の目的・内容・方法・評価 ＊レポートと教材の試作に関する説明を含む。
2回	「オリエンテーション2」子どもの表現とアートについて
3回	「オリエンテーション3」保育指針「表現」について
4回	子どもの表現「形の発見」：折り紙を使った活動1「切り絵」
5回	子どもの表現「形の発見」：折り紙を使った活動2「切り絵」
6回	子どもの表現「イメージの発見」：偶然性からの展開
7回	色について：絵の具を使った活動1「フィンガーペインティング」色の特性を知る
8回	子どもの表現「行為と発見」：絵の具を使った活動2「フィンガーペインティング」絵の具の質感を楽しむ
9回	子どもの表現「行為と発見」：絵の具を使った活動3「フィンガーペインティングの展開」
10回	子どもの表現の発達段階と特徴：クレパスを使った活動1「スクリブルと身体」「見立て」「多視点」など
11回	子どもの表現「行為と発見」：絵具とクレパスを使った活動1「塗り絵」
12回	子どもの表現「行為と発見」：絵の具とクレパスを使った活動2「パチックとステイニング」はみ出す色について
13回	子どもの表現「こどもの発達と気持ち」：事例をもとにこどもの気持ちを想像する
14回	子どもの表現「遊びと表現」：クレパスを使った活動2「写し絵」「スクラッチ」
15回	子どもの表現「美しさの発見」：クレパスを使った活動3「ステンシル」「活動の振り返り」育みたい資質・能力と適切な援助についての考察とまとめ

令和7年度シラバス

科目名			単位	担当教員名	
障害児保育			2単位		
開講年次	1年次	科目区分	必修	授業形態	演習
科目概要					
(授業のテーマ) 障害のある子どもへの配慮や各種制度、具体的支援の技法について近年の知見を理解し、実践力を身につけることを目的とする。 障害のある子どもへの福祉施策を紹介する。また、児童発達支援事業所や放課後等デイサービスにおける実践について具体例を交えながら紹介する。					
(学習目標) 1. 障害のある子どもの特性を理解する。 2. 健常児に対する保育と障害児に対する保育の連続性を理解する。 3. 障害のある子どもや保護者を含めた援助を考えることができる。 4. 子どもの特性を理解し、アセスメントから個別の指導計画を作成することができる。					
評価方法・基準					
レポート課題 -----60% 確認テスト -----30% 出席率-----10%					
履修上の注意点					
専門用語や医学的知識も出てきます。分からないことがあれば、そのつど質問してください。その日の講義の終わりにリアクションペーパーを配布します。質問については必ず次の講義でプリントして答えます。					
教科書					
参考書					
発達障害のある子を理解して育てる本、田中哲・藤原里美、学研 「発達障害」だけ子どもを見ないで その子の「不可解」を理解する、田中康雄 (SB 新書)					

	授 業 内 容
1回	どこか違うかも・・・気になる子どもの姿
2回	障害とは・・・健常者と連続の中に
3回	知能とは何か・IQ の基本的な考え方
4回	知的障害・社会適応
5回	視覚障害・弱視・色覚異常
6回	聴覚障害・平衡機能障害
7回	音声・言語・咀嚼機能の障害
8回	肢体不自由・内部障害
9回	自閉症スペクトラム症 (ASD)
10回	注意欠如多動症
11回	ギフテッドと不登校 (1) 私たちの秘密基地～「ギフ寺」が問いかけるものDVD
12回	ギフテッドと不登校 (2) 私たちの秘密基地～「ギフ寺」が問いかけるものDVD
13回	学習障害、発達性協調運動障害、感覚過敏
14回	第4 の発達障害 (虐待とマルトリートメント)
15回	共生社会の構築とインクルーシブ保育のあり方

	授 業 内 容
16回	こんなときどうする (1) 生活面
17回	こんなときどうする (2) 対人面, コミュニケーション
18回	こんなときどうする (3) 運動面, 学習面
19回	障害受容からレジリエンス
20回	保護者支援と児童福祉法
21回	障害福祉サービスの概要
22回	療育の諸理論 (1) プレイセラピー, ABA, 認知行動療法
23回	療育の諸理論 (2) 感覚統合, TEACCH プログラム,
24回	療育の諸理論 (3) 代替コミュニケーション, マカトン, 絵カード
25回	アセスメント(1) 目的 心理検査
26回	アセスメント (2) 判断のための質問紙とチェックリスト
27回	個別の指導計画 (1) 事例を通してのアセスメント例
28回	個別支援計画 (2) 事例検討, 情報収集と課題の整理
29回	個別支援計画 (3) 事例検討, 目標設定
30回	個別支援計画 (4) 指導内容の検討, 確認テスト

令和7年度シラバス

科目名			単位	担当教員名	
保育実習指導ⅠA			1単位		
開講年次	1年次	科目区分	必修	授業形態	演習
科目概要					
(授業のテーマ) 保育実習の意義・目的・内容・方法を理解する。実習課題の明確化、実習記録の意義・方法、実習施設の理解を図り、保育の理論と実践の関係について習熟し、実習を円滑に行うために必要な事柄を学習する。					
(学習目標) 保育実習の意義・目的・内容といった実習の全体的な枠組みを理解し、実習前にすべき事項の知識と技術を身につけることを目標とする					
評価方法・基準					
出席状況、授業態度、積極性等を総合的に評価する。					
履修上の注意点					
教科書					
これからの時代の保育者養成・実習ガイド (大豆生田啓友・渋谷行成・鈴木美枝子・田澤里喜 編著 中央法規)					
参考書					

授 業 内 容	
1回	オリエンテーション (実習の手引き)
2回	実習に向けて 実習先希望調査 今後の予定
3回	
4回	実習とは 保育所実習 1) 保育実習の目的 2) 保育園のデイリープログラム
5回	3) 観察のポイント 4) 実習課題(目標)の設定 5) 実習日誌、指導実習(部分実習・責任実習)の実際
6回	
7回	施設実習 児童福祉施設等での実習
8回	関連法変更にもなう対象施設の現状について
9回	対象となる子ども・利用者の実態
10回	事例から学ぶ
11回	子どもから学ぶ 保育者から学ぶ 保育環境から学ぶ
12回	
13回	学生調査票作成 写真撮影 *自身の経歴メモを用意
14回	日誌配布 *全3回分の日誌配布
15回	

令和7年度シラバス

科目名			単位	担当教員名	
保育のピアノA			1単位		
開講年次	1年次	科目区分	必修	授業形態	演習
科目概要					
(授業のテーマ) ・課題曲「朝のうた」はレガートとスタッカートを弾き分けて音楽的表現力を高める ・「思い出のアルバム」で8分の6拍子のリズムの数え方を学ぶ					
(学習目標) 保育士に役に立つ色々な曲を練習する					
評価方法・基準					
しっかりした歌声で弾き歌いが出来ていれば、大いに評価する					
履修上の注意点					
・  連続リズムを正しく弾く ・次の小節に移るとき等、ないように気を付ける					
教科書					
楽譜はプリントでレベル1とレベル3用意有り					
参考書					

	授 業 内 容
1回	課題曲「朝のうた」右手リズム・指使い
2回	「朝のうた」片手ずつ～両手
3回	「ロンドン橋」「キラキラ星」の伴奏付け
4回	「朝のうた」
5回	「むすんでひらいて」「手をたたきましょう」
6回	「どんぐりころころ」
7回	「朝のうた」個人レッスン
8回	「朝のうた」個人レッスン
9回	「どんぐりころころ」
10回	「朝のうた」個人レッスン
11回	「朝のうた」個人レッスン
12回	「思い出のアルバム」
13回	「朝のうた」テスト
14回	「朝のうた」テスト
15回	「思い出のアルバム」

※授業の進捗状況によって適宜変更の可能性もありますのでご承知おきください。

令和7年度シラバス

科目名			単位	担当教員名	
ファシリテーション			1単位		
開講年次	1年次	科目区分	選択	授業形態	講義
科目概要					
(授業のテーマ) 関わりあいを通じて個人がよりよく成長したり、協働作業や民主的な話し合いにより課題を解決することをめざします。 講義では「実践編」として会議やミーティング等での司会進行や、設定されたテーマに沿ったグループワークの企画運営など、多様な人々の相互理解と合意形成をサポートする方法を実践的に学んでいきます。本講義はアクティブラーニング型の講義を中心に、適宜グループワークを実施します。					
(学習目標) 講義を通じて以下の力をつけることをめざします。 ① ファシリテーションを進める上で大切な考え方や視点を理解する ② ファシリテーターとしての心構えやスキルの実践的な定着を図る					
評価方法・基準					
出席状況、授業態度、演習成果等を総合的に評価する					
履修上の注意点					
講義への積極的な参加を求めます					
教科書					
講義内で適宜プリント等を配布					
参考書					
講義内で随時紹介する					

	授 業 内 容
1回	オリエンテーション：受講ルールや評価方法等の説明
2回	ファシリテーターの役割：求められる力と心構え
3回	実践演習) 対話デザイン：子育て支援ワークショップ（1） 課題の発掘とテーマ設定
4回	実践演習) 対話デザイン：子育て支援ワークショップ（2） 企画書づくり、役割分担
5回	実践演習) 対話デザイン：子育て支援ワークショップ（3） グループワーク及び発表準備
6回	実践演習) 対話デザイン：子育て支援ワークショップ（4） グループワーク及び発表リハーサル
7回	成果発表（1）
8回	成果発表（2）
9回	実践演習) まちづくりと課題解決ワークショップ（1） 課題の発掘とテーマ設定
10回	実践演習) まちづくりと課題解決ワークショップ（2） 企画書づくり、役割分担
11回	実践演習) まちづくりと課題解決ワークショップ（3） グループワーク及び発表準備
12回	実践演習) まちづくりと課題解決ワークショップ（4） グループワーク及び発表リハーサル
13回	成果発表（1）
14回	成果発表（2）
15回	講評授業：まとめと振り返り

令和7年度シラバス

科目名		単位	担当教員名		
児童文学		1単位			
開講年次	1年次	科目区分	選択	授業形態	講義
科目概要					
(授業のテーマ) 児童文学の一ジャンルである絵本は、保育の現場で重要な役割をもつ文化財です。乳幼児期にすぐれた絵本と出会うことは、長い人生の土台作りとして大きな意味をもっているからです。したがって、保育者になる前に「絵本」について学ぶことは、質の高い保育活動を行う上で必要なことと考えます。 本講義では、絵本についての理解を深めることを目的として、絵本表現の特徴、その発展の歴史、また、幼い子どもたちにとっての絵本の意義や役割について、さらに、子どもたちの心に届く読み聞かせ方、その基本について学んでいきたいと考えます。					
(学習目標) ① 「絵本とは何か」その理解を深めること。 ② 子どもにとっての絵本の魅力について考える力を養うこと。 ③ 絵本について深く知ること、保育の現場で、絵本の力を充分に生かせるようにすること。					
評価方法・基準					
提出プリント（50％）授業参加・授業姿勢（50％）					
履修上の注意点					
将来、保育士につくことを念頭に置きながら、積極的かつ主体的に受講すること。図書室などを活用し、多くの絵本に触れて欲しい。					
教科書					
特になし。プリントを作成して配布する。					
参考書					
授業のなかで適宜紹介する。					

	授 業 内 容
1回	ガイダンス —講義の流れと評価対象となる課題についての説明など
2回	絵本表現の特徴とその魅力
3回	絵本表現の発展① イギリスからアメリカへ
4回	アメリカ絵本②（バージニア・リー・パートン他）
5回	アメリカ絵本③（レオ・レオニ、モーリスセンダック他）
6回	アメリカ絵本④（エリック・カール他）
7回	日本の絵本の発展①—戦後～1970 年代
8回	日本の絵本の発展②—1970 年代～2000 年代
9回	赤ちゃん絵本から物語絵本へ
10回	物語絵本—子どもにとって面白い絵本ってどんな絵本？ ①昔話絵本
11回	物語絵本—子どもにとって面白い絵本ってどんな絵本？ ②創作物語絵本
12回	物語絵本—子どもにとって面白い絵本ってどんな絵本？ ③創作物語絵本
13回	心の豊かな育ちと物語絵本—絵本が子どもの心を育てるってどういうこと？
14回	心に届く絵本の読み聞かせ—声の出し方と表現の基礎・基本
15回	課題の作成

令和7年度シラバス

科目名			単位	担当教員名	
リトミック			1単位		
開講年次	1年次	科目区分	選択	授業形態	演習
科目概要					
(授業のテーマ) みなさんは「リトミックって何ですか？」と聞かれたらどう答えるだろうか？ この授業では、みなさん自身が楽しくリトミックを経験しながら、現場でのピアノ演奏法を具体的に学び、音楽に合わせて動くことの心地よさを体感する。 2、3、4拍子の活動、基礎リズムを手拍子したりステップしたりして、音楽と身体運動と精神活動の融合を図るリトミック教育を学ぶ。					
(学習目標) 1. 子どもの年齢に合わせたリトミックの指導方法がわかる。 2. リズム・拍子を理解し、動くことができる。 3. リトミックとは何かを具体的に説明できる。					
評価方法・基準					
・実技テスト 70% ピアノ演奏、リズム、理論 ・意欲、態度 20% 出席 10%					
履修上の注意点					
・身体を動かす授業である。動きやすい服装で、底の薄いシューズを用意して出席すること ・スカート、ブーツ、ヒールの高い靴は禁止					
教科書					
参考書					
「1～5歳のかたんリトミック」(ナツメ社) 「リトミックってなあに」(ドレミ楽譜出版社)					

	授 業 内 容
1回	①リトミックについて ②楽しいリトミックの経験(1) 授業内容の紹介をし、リトミックの役割を具体的に学びます。実際に身体を動かし、リトミックの経験をします。
2回	①楽しいリトミックの経験(2) ②強弱・テンポ・空間・アクセント ③基礎的な動き④2拍子基礎リズム リトミックを表現するのに大切な、時間・空間・エネルギーを身体を使って比較しながら学びます。
3回	3歳のリトミック指導 3歳児の発育と発達、それに合わせた幼稚園・保育園でのリトミック指導を学びます。
4回	①楽しいリトミックの経験(3) ②2拍子基礎リズム③基礎的な動き④拍子リトミックでの歩行・走り方、2拍子基礎リズムを色々な方法で練習。
5回	4歳のリトミック指導 4歳児の発育と発達、それに合わせた幼稚園・保育園でのリトミック指導を学びます。
6回	リズム演奏法① 現場で子どもたちにリトミックを指導する際のピアノ演奏法を学びます。前回の授業で指定した曲を練習しておくこと。
7回	5歳のリトミック指導 5歳児の発育と発達、それに合わせた幼稚園・保育園でのリトミック指導を学びます。
8回	①楽しいリトミックの経験(4) ②2拍子基礎リズム③拍子 2拍子基礎リズムを動けるように復習しておくこと。2・3・4拍子を色々な方法で学びます。
9回	2歳のリトミック指導 2歳児の発育と発達、それに合わせた幼稚園・保育園でのリトミック指導を学びます。
10回	リズム演奏法②【試験公示案内】 現場で子どもたちにリトミックを指導する際のピアノ演奏法を学びます。前回の授業で指定した曲を練習しておくこと。
11回	1歳のリトミック指導 1歳児の発育と発達、それに合わせた幼稚園・保育園でのリトミック指導を学びます。
12回	①楽しいリトミックの経験(5) ②リズム創作③リズムフレーズ④ソルフェージュ 2拍子のリズムを組み合わせてリズム創作をしたり、リズムフレーズにしていける。
13回	①2拍子基礎リズム②リズム創作したものを動けるようにする。 試験公示の内容に従って練習しておくこと。
14回	リズム演奏法③ 現場で子どもたちにリトミックを指導する際のピアノ演奏法を学びます。試験公示で指定した曲を練習しておくこと。
15回	実技テスト

令和7年度シラバス

科目名			単位	担当教員名	
保育所保育指針			1単位		
開講年次	1年次	科目区分	選択	授業形態	講義
科目概要					
(授業のテーマ) ・「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に示される保育の基本について学ぶ。 ・保育のねらい、内容等のつながりを学び、どのように実践されるか理解を深める。					
(学習目標) 1. 保育所保育指針・認定こども園保育・教育要領・幼稚園教育要領の基本・概要を理解する。 2. 保育所保育指針・要領に基づいた実践を説明できる。 3. 「養護及び教育を一体的に行う」という保育所保育指針の趣旨を理解する。					
評価方法・基準					
出席・学習意欲・態度50% 提出物・テスト等50%					
履修上の注意点					
予習していることを前提に授業が進みます。シラバスで示す「保育所保育指針」の該当する章に必ず目を通してから授業に臨んで下さい。指針を読む習慣をつけましょう。					
教科書					
保育所保育指針解説					
参考書					
保育所保育指針ハンドブック（学研）					

	授 業 内 容
1回	保育所保育指針・認定こども園保育・教育要領・幼稚園教育要領の基本・概要
2回	改定の背景～これからの保育・幼児教育に求められること 保育所保育指針・認定こども園保育・教育要領・幼稚園教育要領の違い
3回	保育所保育指針「第1章 総則」～保育の原則・養護と教育の一体
4回	保育所保育指針「第1章 総則」～保育の計画及び評価
5回	保育所保育指針「第1章 総則」～3つの資質と能力・10の姿
6回	保育所保育指針「第2章 保育の内容」3歳以上児
7回	保育所保育指針「第2章 保育の内容」1歳～3歳未満児
8回	保育所保育指針「第2章 保育の内容」0歳児
9回	保育所保育指針「第3章 健康及び安全」～子どもの健康支援・食育
10回	保育所保育指針「第3章 健康及び安全」～衛生、安全の管理・災害への備え
11回	保育所保育指針「第4章 子育て支援」①
12回	保育所保育指針「第4章 子育て支援」②
13回	保育所保育指針「第5章 職員の資質向上」
14回	テスト
15回	まとめ

令和7年度シラバス

科目名		単位		担当教員名	
保育書類指導		2単位			
開講年次	1年次	科目区分	選択	授業形態	講義
科目概要					
(授業のテーマ)					
保育の実践現場において必要な計画に関する書類作成について学ぶ。計画、実践、評価、改善の流れを理解し、作成の基礎を身につける。					
(学習目標)					
1. 子どもの姿から全体的な計画・指導計画が作成されることを理解する。 2. 書類作成の基礎を身につけ、改善点を見つけられる。 3. 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」に基づく評価方法を理解する。					
評価方法・基準					
出席状況、授業に参加する学習態度50％・指導案50％ ※指導案は、書類作成の基本に沿っていること、積極的に練習をしていること、自ら改善点を見つけ修正ができること、提出期限等の管理をしていることを総合的に評価する。					
履修上の注意点					
・復習を徹底し、授業で指導案が完成しない場合は、完成させてから次の授業に出席する。 ・内容の深まり具合によって授業内容が前後する。 ・個人ワークが中心の授業のため、自己管理の意識、自己課題の明確化等主体的に臨むこと。 ・計画の立て方の基本である「必修科目：保育の計画と評価A」に準ずる。					
教科書					
保育所保育指針					
参考書					
教育課程・保育の計画と評価/萌文書林					

	授 業 内 容
1回	保育計画の仕組み～ 全体的な計画・年間指導計画から指導計画へ
2回	保育の評価～ PDCAサイクル
3回	書く練習① 幼児の指導計画～ 書き方の基本と練習の仕方
4回	書く練習② 幼児の指導計画
5回	書く練習③ 幼児の指導計画
6回	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」と評価について
7回	5領域が関連し合って展開される指導計画～ 保育所保育指針の活用
8回	書く練習⑤ 乳児の指導計画
9回	書く練習⑥ 乳児の指導計画
10回	書く練習④ 乳児の指導計画
11回	書いた指導案を基に 自己評価・改善点をみつける
12回	週案
13回	月案
14回	教材研究と指導計画の作成①
15回	教材研究と指導計画の作成②

	授 業 内 容
16回	教材研究と指導計画の作成③
17回	実習日誌と指導計画について
18回	日案①
19回	日案②
20回	日案③
21回	部分実習指導案の作成①
22回	部分実習指導案の作成②
23回	全日実習指導案の作成①
24回	全日実習指導案の作成②
25回	全日実習指導案の作成③
26回	全日実習指導案の作成④
27回	実習指導案を書くにあたり、困りごとや難しい点を出し、検討する
28回	特別な支援を要する子どもの個別指導計画について①
29回	特別な支援を要する子どもの個別指導計画について②
30回	まとめ

令和7年度シラバス

科目名		単位		担当教員名	
保育ICT		単位			
開講年次	1 年次	科目区分	選択	授業形態	講義
科目概要					
(授業のテーマ) 保育現場における ICT(情報通信技術)の活用について現状、今後の方向性を理解する。本科目では、講義および視聴覚資料による解説・事例紹介に加えて、学生自身が各種ICT機器、環境を活用することを基本とする。					
(学習目標) ・ 保育現場でのICT活用の知識 ・ ICTツールの利用					
評価方法・基準					
・ 出席等の授業姿勢 ・ リアクションペーパー					
履修上の注意点					
受講人数により内容を適宜変更する。					
教科書					
参考書					

	授 業 内 容
1回	保育ICTとは
2回	保育ICTの現状認識
3回	保育ICT事例①
4回	保育ICT事例②
5回	保育ICT事例③
6回	グループワーク
7回	発表
8回	デジタル保育教材事例①
9回	デジタル保育教材事例②
10回	デジタル保育教材③
11回	グループワーク
12回	発表
13回	ICTツール実践①
14回	ICTツール実践②
15回	まとめ

令和7年度シラバス

科目名			単位	担当教員名	
特別支援教育			1単位		
開講年次	1年次	科目区分	選択	授業形態	講義
科目概要					
(授業のテーマ)					
1、障害による特別な教育的ニーズを有する子どもの発達と学習の特性及び基本的支援の方法を理解し説明できる。 2、特別支援教育の理念と制度、支援体制、教育課程の概要を理解し説明できる。 3、様々な特別な教育的ニーズのある子どもの実態を調べ説明できる。					
(学習目標)					
特別支援教育の理念・制度を踏まえたうえで、身体障害、知的障害、発達障害などの特別な教育的ニーズを有する子どもの発達や学習の特性、支援の方法、教育・保育・医療・福祉との連携について理解する。また、貧困、虐待、外国籍等により特別な教育的ニーズを有する子どもの学習上又は生活上の困難や、組織的な対応の必要性について理解する。					
評価方法・基準					
授業姿勢、レポート提出など					
履修上の注意点					
児童に携わるものとして、当事者意識をもって思案できる姿勢が望ましい。					
教科書					
参考書					
はじめての特別支援教育―教職を目指す大学生のために 改訂版 (有斐閣アルマ) ISBN-13 : 978-4641220386					

	授 業 内 容
1回	特別支援教育の理念とシステム①
2回	特別支援教育の理念とシステム②
3回	子どもの理解と指導・支援① LD・ADHDの理解と指導・支援
4回	子どもの理解と指導・支援② 自閉症スペクトラムの理解と指導・支援
5回	子どもの理解と指導・支援③ 情緒障害・言語障害の理解と指導・支援
6回	子どもの理解と指導・支援④ 知的障害の理解と指導・支援
7回	子どもの理解と指導・支援⑤ 肢体不自由・病弱・身体虚弱・重複障害の理解と指導・支援
8回	子どもの理解と指導・支援⑥ 視覚障害・聴覚障害の理解と指導・支援
9回	子どもの理解と指導・支援⑦ その他の多様な状態を併せもつ子どもの理解と指導・支援
10回	個別の指導計画と個別の教育支援計画
11回	保護者や関係機関との連携①
12回	保護者や関係機関との連携②
13回	保護者や関係機関との連携③
14回	保護者や関係機関との連携④
15回	まとめ